

いきいき

VOL 2
平成19年5月30日
いわき市総合教育センター

■ 特別な支援を必要とする子に対して日常的に留意すべきこと

■1 叱責について

子どもの状態によりますが、心に余裕がない子を感情的に叱るのは、あまり効果がありません。かえって素直に反省できない心の状態をつくってしまいます。

それは、叱られると防衛反応が作動してしまい、言われていることが頭に入っていないばかりか、かえって本能的に反抗や攻撃的になってしまうからです。強制すれば、さらに脳は混乱し不適切な行動を強めていきます。そのような場合は、そのような行動をとってしまった子どもの背景にあるものを汲み取りながら、できるだけ感情的にならず、その行動の善し悪しを具体的に短い言葉で伝えるようにした方がよいようです。そして落ち着いてから、なぜそのような行動をしたのか、今後同じような場面に出会ったときにはどうすれば良いのか等を気づかせるチャンスにしたいと考えます。

■2 コミュニケーションについて

障がいをもっている子は、コミュニケーションがうまくできずストレスを貯めていることが多くあります。自分の気持ちがうまく伝えられないため、暴力で訴えたり、自分の言葉で表現することを諦めてしまったりしがちです。特に、いわゆる軽度の発達障がいをもつ子は、表面的には会話が普通にできるように見えていますが、実は会話の意味をよく理解できていないため、トラブルになってしまうことが多々あります。そのときは、表現のたりないところや誤解されやすいところを先生や保護者が補ってあげることが大切です。そして意識的に表現力を育て、コミュニケーション能力を身につけさせる必要があります。

そのためには、抽象的な言葉をできるだけ避け、子どもが頭の中にイメージしやすいような具体的な内容で話しかけるのが大切です。複雑な内容の時には、具体物や写真などを取り入れたり略図を入れながら筆談形式で一つ一つ確認しながら進めていくと効果があります。

■3 困った行動について

- ① 現在困っている行動は何ですか。()
- ② その行動について、本人は
 - ア) 「悪いこと」という自覚がないレベルですか。
 - イ) 頭では「悪い。」と想着いても、自分の感情や行動を制御できないレベルですか。

⇒ 困った行動がいくつかある場合は、大まかに次の3つに分けて一貫して指導した方が効果的です。

- 1) 全職員が共通理解のもと組織的に、絶対引かないで指導すべきもの
- 2) 日常的に言葉掛けをして、「善い事、悪い事」の判断力を身につけさせるために指導すべきもの
- 3) あえて無関心を装い、本人のペースにはまらないことで、その行動を減らしていくべきもの



※ 詳しくは、次回号で考えていきたいと思ひます。

◆ お知らせ：別紙に「巡回相談員」について載せておきましたのでご利用ください。